

2018年3月期 決算説明会

2018年5月8日

1. 新中期経営計画(2018/4月～2021/3月)の概要

代表取締役社長 山木 一彦

2. 2018年3月期 連結決算の概要と 2019年3月期 業績見通し

代表取締役専務 伊東 信平

新中期経営計画 (2018/4月～2021/3月)の概要

代表取締役社長 山木 一彦

前中期経営計画の振り返り



単位：億円

	2015/3月期		2018/3月期 中期計画	2018/3月期 計画	2018/3月期 実績	修正との 比較
売上高	856		945	900	895	↓
営業利益	46		75	68	62	↓
営業利益率	5.4%		7.9%	7.6%	7.0%	↓
当期純利益	37		51	43	56	↑
当期純利益率	4.4%		5.3%	4.8%	6.3%	↑

* 2015.5.15発表時

* 2017.10.31修正発表

	国内（収益基盤の強化）	海外（成長エンジン）
プラス 要因	・付加価値製品の伸長 ・不採算品目整理による利益向上 ・新分野への提案（改良剤事業他）	・リケビタマレーシアでの生産設備拡張 ・海外アプリケーションセンターの強化（国内連携）
マイナス 要因	・売上：不採算品目の政策的終売による売上減 ・家庭用ノンオイルドレッシングの低迷	・為替影響による売上げの減少 ・改良剤原体の価格競争による利益低下 ・青島福生のビジネスモデル改革の遅れ

食を通じて、健康と豊かな食生活を
提供することで社会の信頼に応える企業

B to C のお客様 | B to B のお客様

グローバルなフィールドでの成長と企業価値向上

新中計の推進

新中計の推進

- ・独自の技術を活用
- ・事業の選択と集中

企業体質の強化

- ・コンプライアンス体制
- ・ガバナンス体制

3事業のシナジー

食品事業

改良剤事業

ヘルスケア事業

グループ経営をベースとした、事業基盤の強化

持続的成長と競争力のある企業を目指す

新領域への挑戦

独自の技術力 ・ 開発力の強化

● 国内事業

成熟市場

～さらなる収益基盤の強化～

● 海外事業

拡大市場

～構造基盤の強化による
成長エンジンの加速化～

天然原料の有効活用

技術・製品をベースにした
アプリケーション提案

抽出・精製・濃縮技術

CSR 経営の推進

新中期経営計画 目標値



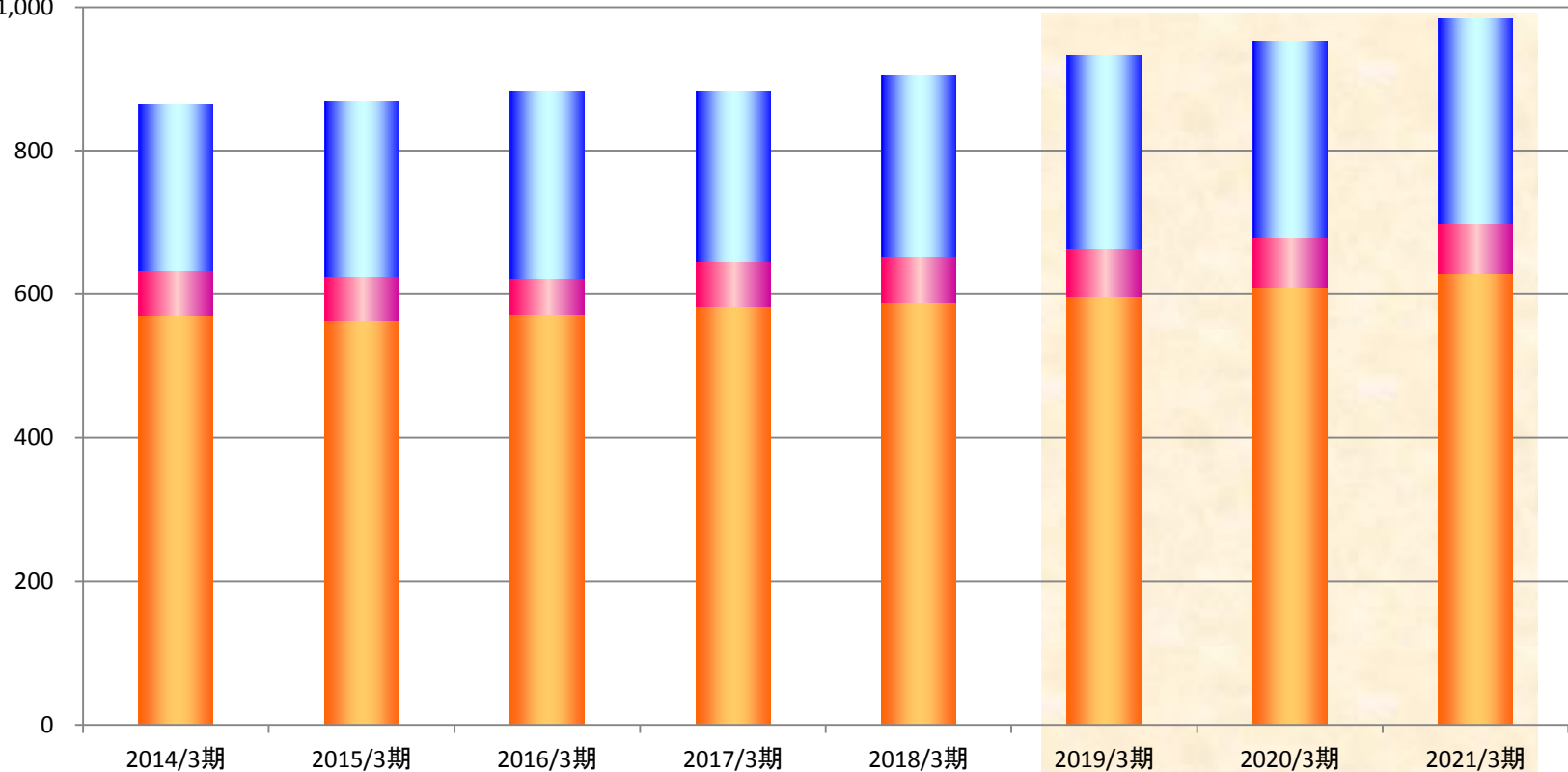
	2018/3期 実績	2021/3期 目標
売上高	(895億円)	970億円以上
営業利益	(62億円)	80億円以上
営業利益率	(7.0%)	8.2%以上
当期純利益	(56億円) [※]	54億円以上
R O E	(10.0%) [※]	8.0%以上

※ 2018/3期の当期純利益・R O E は、『投資有価証券売却益』により高い値となっています。

セグメント別売上高目標



単位：億円 1,000



新中期経営計画

2021/3期計画

630億円

70億円

285億円

※各事業の数値には、セグメント間の内部売上高を含めています。

セグメント別営業利益目標



単位: 億円

100

50

0

2014/3期

2015/3期

2016/3期

2017/3期

2018/3期

2019/3期

2020/3期

2021/3期

営業利益率

9.0%

8.0%

7.0%

6.0%

5.0%

4.0%

3.0%

2.0%

1.0%

0.0%

2015/3期

2018/3期

()は営業利益率
2021/3期計画

国内食品

39
(7.1%)

66
(11.2%)

64億円
(10.2%)

国内化成品他

3
(5.9%)

7
(11.6%)

6億円
(8.6%)

海外

7
(3.0%)

▲7
(-)

15億円
(5.3%)

営業利益率
(全社)

5.4%

7.0%

8.2%

※セグメント利益は、連結財務諸表の営業利益と調整を行っています。

国内食品事業 2021/3期 630億円（2018/3期比 +39億円）

家庭用食品

2021/3期 165億円
(2018/3期比 +11億円)

- 消費者ニーズに応える
調味料・即食商品の強化
⇒ドレッシング、素材力だし®、スープ関連等
- 海藻トータルでの提案による
ブランド価値向上
⇒「ときめき海藻屋」の展開



業務用食品

2021/3期 230億円
(2018/3期比 +14億円)

- 海藻トータルでの提案による
ブランド価値向上
⇒冷凍海藻拡売等
- 拡大する中食（惣菜）市場への積極提案



国内食品事業

加工食品用原料等

2021/3期 235億円
(2018/3期比 +13億円)

● 高付加価値品による

既存主要市場の更なる拡大

⇒製パン 油脂 豆腐 飲料
和菓子 洋菓子 製粉各業界



● 独自技術を活かした

新規分野への用途提案

⇒製菓関連
⇒介護食・流動食関連
⇒ペットフード関連

● ビタミン事業の強化

⇒新規市場の獲得と高付加価値製剤品の拡売

国内化成品その他事業

2021/3期 70億円
(2018/3期比 +4億円)

● 既存主要市場のさらなる提案力強化

⇒ソリューションビジネス
⇒新規用途開発



農業用フィルム防曇剤

● 独自技術を活かした新規業界への拡張

⇒化粧品など



シャンプー・リンスへの活用

海外事業 2021/3期 285億円(2018/3期比 +32億円)

改良剤(食品用/化成品用)

2021/3期 177億円
(2018/3期比 +25億円)

青島福生食品

2021/3期 108億円
(2018/3期比 +6億円)

- 高付加価値製剤の拡販

- 販売エリアの選択と集中

⇒成長市場の東南アジアを中心とした戦略

- 海外生産本部機能の再編による
国内外の連携

⇒リケビタ・マレーシア（工場）他の生産効率化

- ビジネスモデル改革の加速

⇒中国国内市場の開拓

- ローコストプロダクション推進

⇒効率的生産



独自の技術をベースとした開発力を強化し、社会に貢献していく

食品事業

● 差別化された新規天然系調味料素材の開発

● ゆりあげファクトリー※1

しゅびょう

⇒優良種苗開発※2と新規海藻養殖技術の研究

※1：当社の連結子会社である理研食品（株）が、
宮城県名取市に開設したわかめ加工と種苗の生産・研究拠点

※2：わかめの「苗」の状態、従来は海中で育成しているが、ゆりあげファクトリーでは
「優良な苗」を選別し、陸上で安定育成し、わかめ養殖業者に提供する

● わかめの科学的産地判別検査と情報発信（三陸・鳴門・韓国）

⇒産地別ブランドの価値向上

● 海藻の健康機能のさらなる研究と情報発信

⇒新規需要の創出

● 中食市場（惣菜）への取り組み

⇒機能性調味料※3のバリエーション強化

※3：惣菜類の流通時、継時に対する美味しさの保持を目的とした調味料提案。
当社の調味技術や食品用改良剤技術の活用。



陸上養殖研究用水槽



わかめ種苗育成



中食弁当

独自の技術をベースとした開発力を強化し、社会に貢献していく

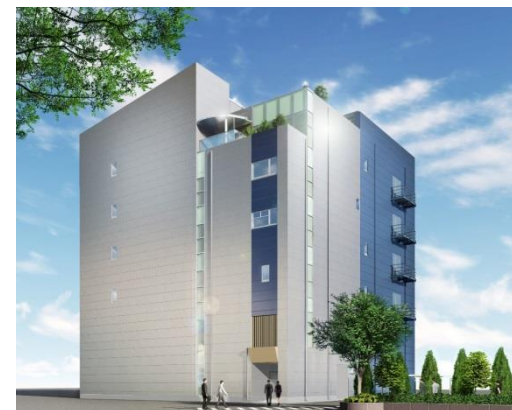
改良剤事業

- **新研究・開発センター（仮称）開設（2019年予定）**

**食品用改良剤のソリューションビジネス
および価値創造型提案の強化**

⇒基礎研究・分析・応用技術・提案手法の集約化

⇒海外アプリケーションセンターとの連携



新研究・開発センターイメージ図

- **食品添加物を活用した化成品用改良剤の
新規分野への展開**

⇒農業分野での防虫機能



トマト栽培での防虫

独自の技術をベースとした開発力を強化し、社会に貢献していく

ヘルスケア事業

●機能性表示食品強化による 新規需要の取り込み

⇒クロセチン※等のエビデンス強化

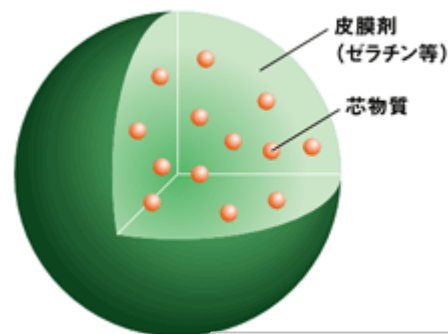
※：クちなシやサフランの実を由来とする天然成分
目の疲れから生じるピント調節機能の低下を緩和し、目の調子を整える



クロセチン原料 クちなシの実

●マイクロカプセル事業拡大に向けた研究

⇒新機能提案による用途拡大



マイクロカプセル

CSR経営の推進

ステークホルダーを重視した活動を推進し、社会の持続可能な発展に貢献していく

社会貢献

- ゆりあげファクトリーの種苗提供を通じた、
海藻養殖事業の生産性向上と作業負担低減



宮城県名取市 ゆりあげファクトリー

コミュニティ

- 食育活動の推進
日本の伝統食材 わかめを通じて
子ども達の健康や食知識を
豊かにする「わかめ授業」の実施



小学校でのわかめ学習授業

ステークホルダーを重視した活動を推進し、社会の持続可能な発展に貢献していく

お取引先様

● 持続可能な調達への対応

⇒FSC認証※1、RSPO認証※2

※1：責任ある森林管理を世界に普及させることを目的とする
「森林管理協議会（Forest Stewardship Council）」が運営する
国際的な森林認証制度

※2：環境・社会に配慮したパーム油の生産を推進する
「持続可能なパーム油のための円卓会議（Roundtable
on Sustainable Palm Oil）」が運営するパーム油の
国際的な認証制度



株主様

● 長期的な視野に立ち、 株主を重視した安定な株主還元の実施

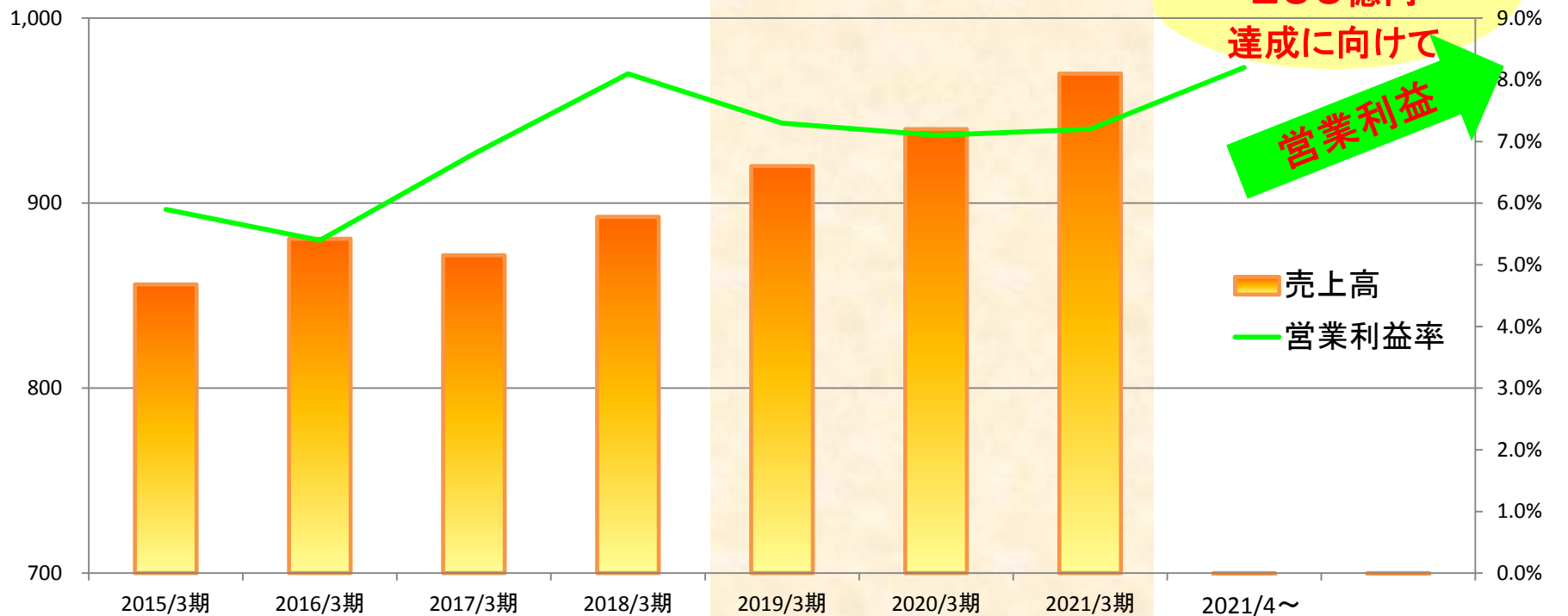
企業風土

● 当社の自由闊達な社風に加え、 グループ全従業員が より働きやすい 職場環境・企業風土の醸成

推移



単位: 億円



次期中計 営業利益率
100億円
 達成に向けて
 営業利益

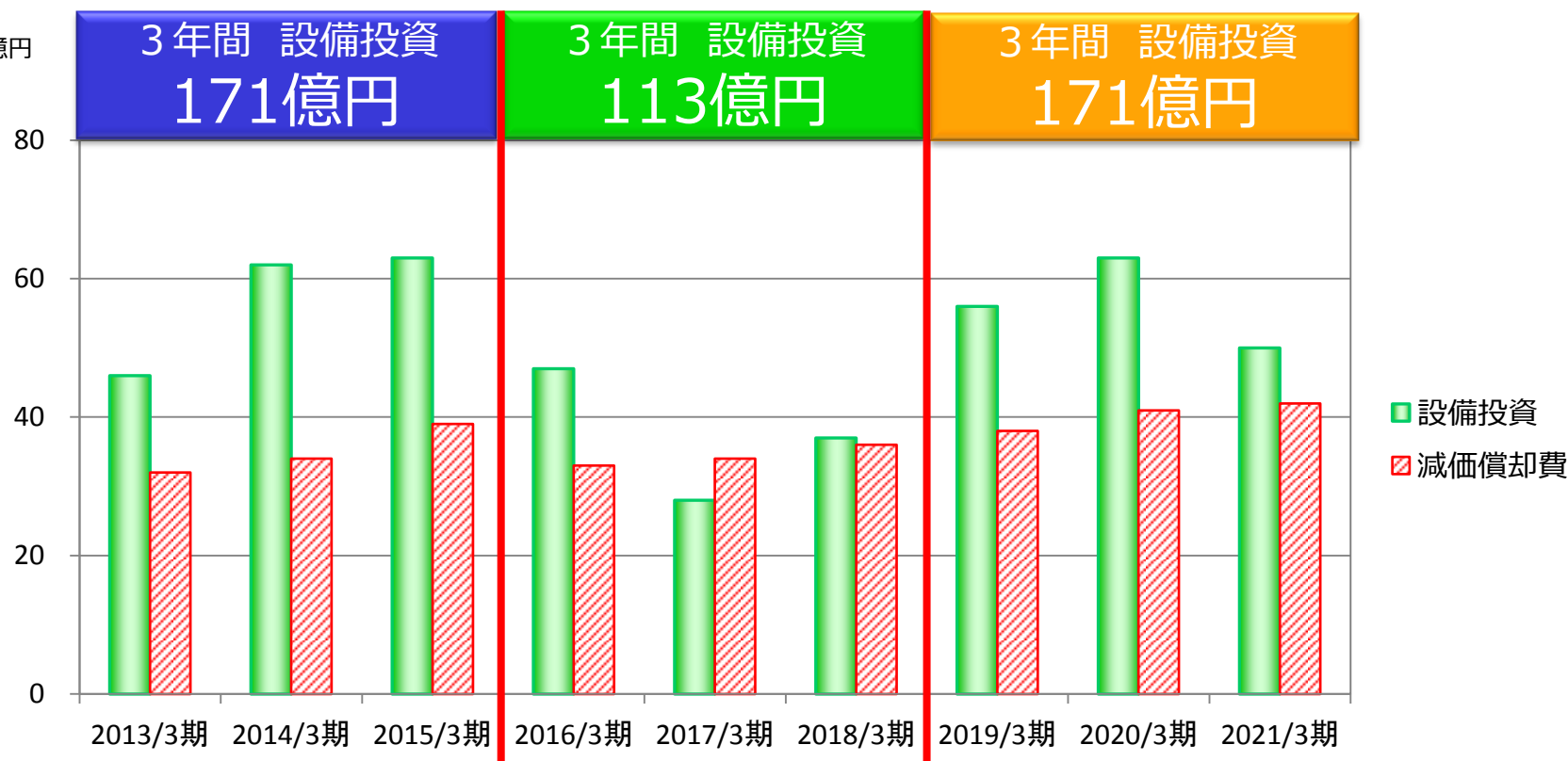
	2015/3期	2018/3期	2021/3期計画
売上高	856	895	970億円
営業利益	46	62	80億円
営業利益率	5.4%	7.0%	8.2%
当期純利益	37	56	54億円
ROE	5.3%	10.0% ※	8.0%

※ 2018/3期の当期純利益・ROEは、『投資有価証券売却益』により高い値となっている。

設備投資計画 および 減価償却費



単位：億円



主な会社別設備投資額

	2019/3期	2020/3期	2021/3期	3年間 投資額
理研ビタミン	30	52	38	120
理研食品	6	4	3	14
リケビタ・マレーシア	5	3	2	10

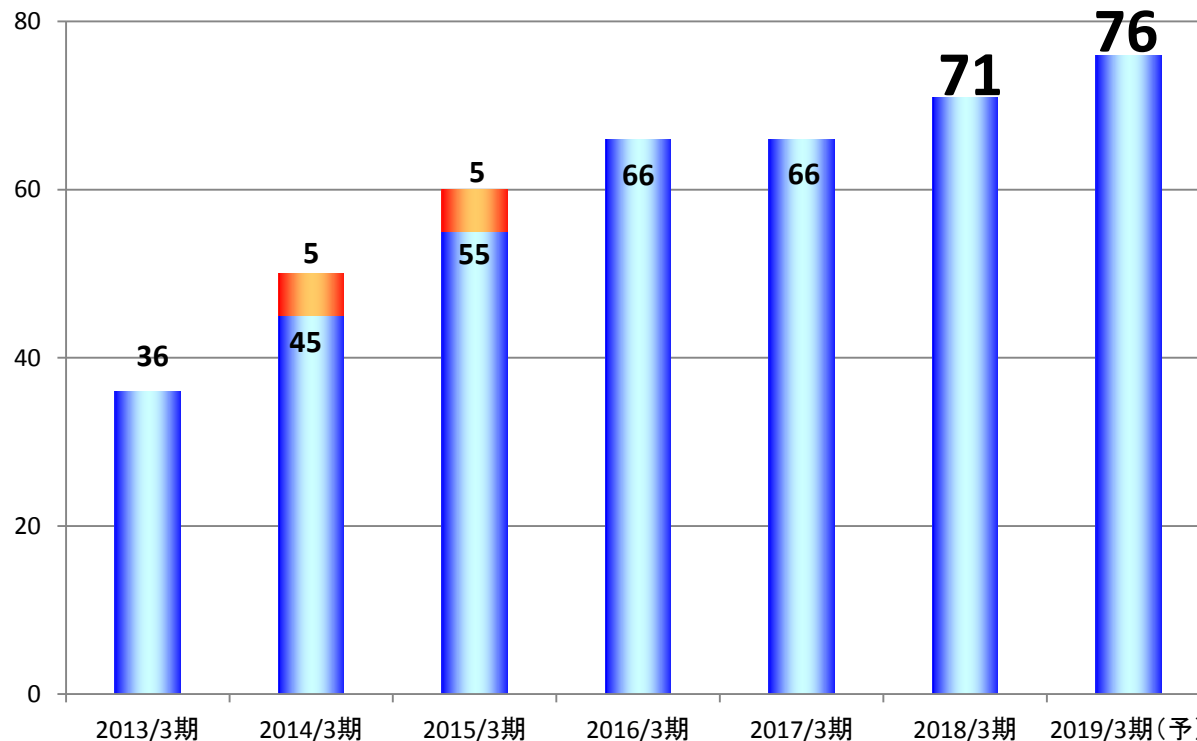
株主還元について



当社の利益還元に関する基本方針

業績に大きな変動がない限り、
原則として、前期の一株あたりの配当金額と同水準の
安定的な配当を実施

1株当たり配当金(円)



2019/3期 (予)
76円

■ 記念配当
■ 普通配当

2018年3月期 連結決算の概要 2019年3月期 業績見通し

代表取締役専務 伊東 信平

連結損益計算書



売上高は過去最高となったが、原材料費の上昇等もあり、
営業利益・経常利益は減益

投資有価証券売却益等により、**親会社株主に帰属する当期純利益は過去最高**

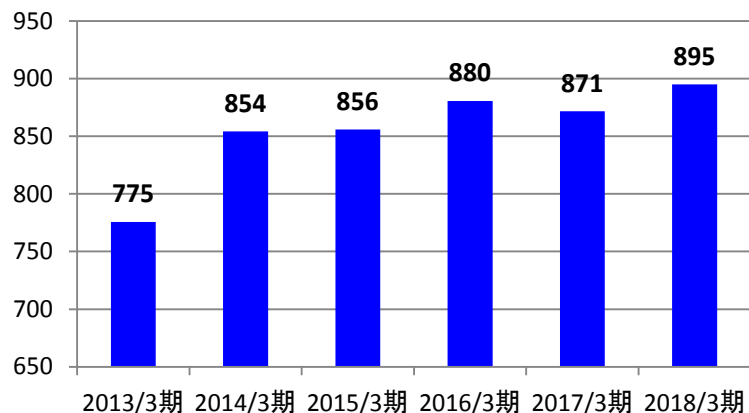
	2017/3月期		2018/3月期		前期差(億) 前期比(%)	為替影響(億)
	実績 億円	%	実績 億円	%		
売 上 高	871		895		23 102.7%	7
営 業 利 益	70	8.1%	62	7.0%	▲ 7 88.7%	0
経 常 利 益	64	7.4%	54	6.1%	▲ 10 83.6%	▲ 0
親会社株主に帰属する 当期純利益	43	5.0%	56	6.3%	13 130.2%	▲ 0

R O E	6.8%	10.0%	+3.2%	
-------	------	-------	-------	--

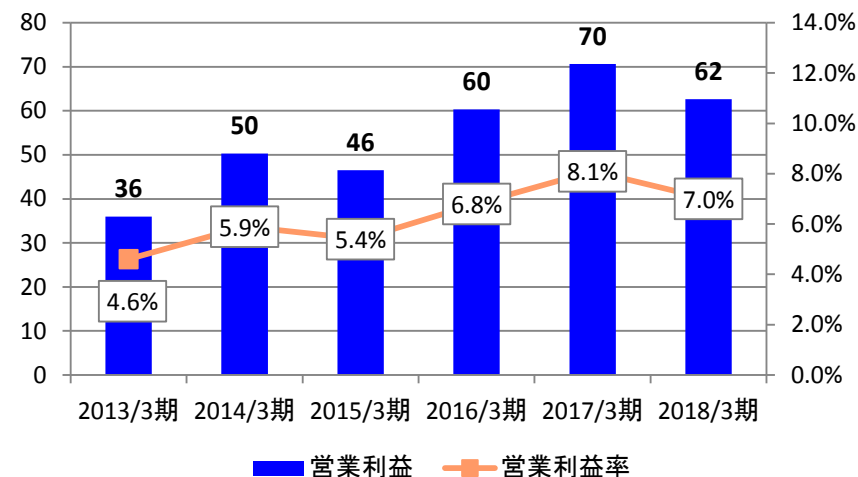
業績推移(2013/3月期～2018/3月期)



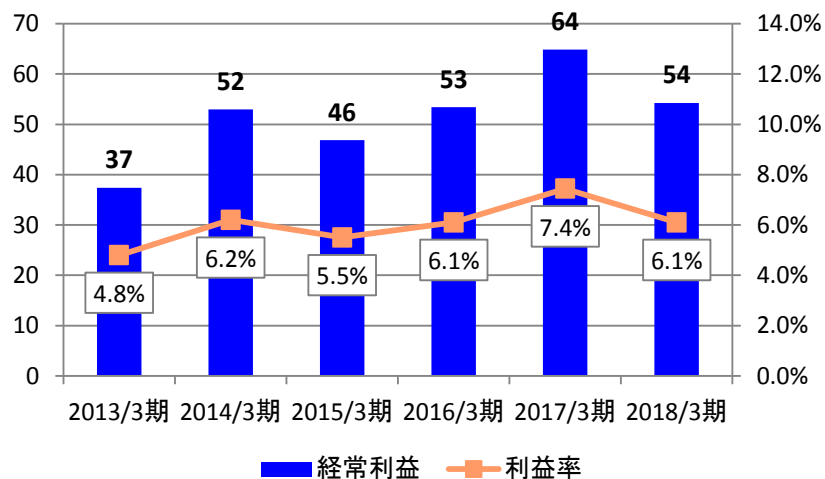
売上高



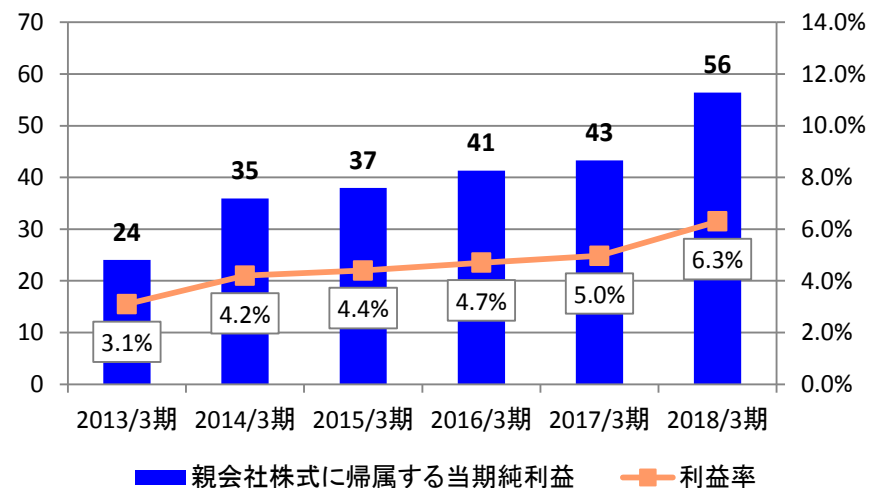
営業利益



経常利益



親会社株式に帰属する当期純利益



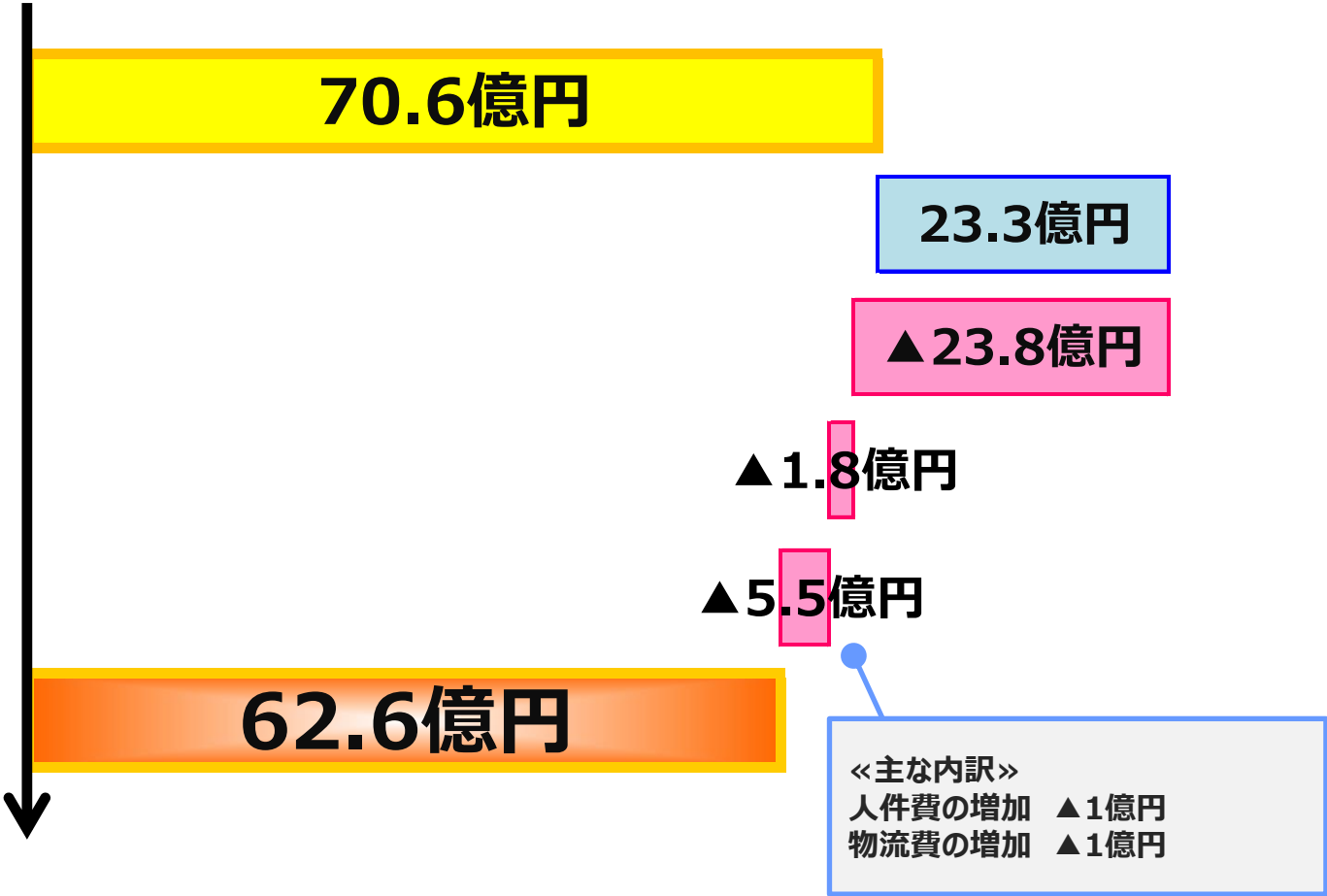
セグメント別売上高／営業利益



国内・海外ともに増収減益
海外は営業利益がマイナスに転じる

		2017/3月期		2018/3月期		前期比	
		実績		実績			
		億円	%	億円	%	億円	%
国内食品事業	売上高	582		590		+ 7	101.3%
	営業利益	67	11.6%	66	11.2%	△ 1	97.8%
	家庭用食品	155		153		△ 1	98.9%
	業務用食品	214		215		+ 1	100.9%
	加工食品用原料等	213		221		+ 7	103.6%
国内化成品その他事業	売上高	61		65		+ 3	106.4%
	営業利益	6	10.9%	7	11.6%	+ 1	113.3%
海外事業	売上高	237		252		+ 14	106.2%
	営業利益	0	0.3%	▲ 7	—	△ 7	—
	改良剤事業	142		151		+ 8	105.9%
	食品事業	95		101		+ 6	106.6%
セグメント 計	売上高	882		908		+ 26	103.0%
	営業利益	74	8.5%	66	7.3%	△ 8	88.9%
調整額 (セグメント間消去)	売上高	▲ 10		▲ 13		△ 3	
	営業利益	▲ 4		▲ 3		+ 0	
合計	売上高	871		895		+ 23	102.7%
	営業利益	70	8.1%	62	7.0%	△ 7	88.7%

売上高の増加以上の原材料費等の上昇により、営業利益は減益となる



連結貸借対照表



億円

	2017/3月期 期末	2018/3月期 期末	前期差 (為替影響)		2017/3月期 期末	2018/3月期 期末	前期差 (為替影響)
流動資産	600	604	+3 (+6)	負債	557	520	▲36 (+3)
現金及び預金	180	159	▲21 (+0)	流動負債	306	286	▲19 (+3)
受取手形及び売掛金 (電子記録債権含む)	228	264	+36 (+2)	固定負債	250	233	▲16 (+0)
たな卸資産	173	161	▲11 (+2)	うち、自己株取得による 長期借入金	(190)	(170)	(▲20) -
その他	18	18	▲0 (+0)	純資産	539	601	+61 (+7)
固定資産	495	517	+21 (+5)	株主資本	435	501	+65 (▲0)
有形固定資産	282	287	+5 (+4)	その他の包括利益 累計額	98	95	▲3 (+7)
無形固定資産	7	7	▲0 (+0)	新株予約権	0	-	▲0 -
投資その他の資産	205	222	+17 (+0)	非支配株主持分	5	4	▲0 (+0)
資産 合計	1,096	1,121	+25 (+11)	負債純資産 合計	1,096	1,121	+25 (+11)

連結キャッシュ・フロー計算書



現金及び現金同等物の期末残高は144億円
期首から17億円減少

億円

	2017/3月期	2018/3月期
現金及び現金同等物の 期首残高	131	162
営業活動によるキャッシュ・フロー	81	57
投資活動によるキャッシュ・フロー	▲ 30	▲ 16
財務活動によるキャッシュ・フロー	▲ 18	▲ 58
現金及び現金同等物に係る 換算差額	▲ 2	0
現金及び現金同等物の 期末残高	162	144

営業CF

税金等調整前純利益	82
減価償却費	36
投資有価証券売却益	▲ 29
売上債権の増加	▲ 33
たな卸資産の減少	14
仕入債務の増加	12
法人税等の支払	▲ 19

投資CF

有形固定資産の取得	▲ 29
投資有価証券の取得	▲ 21
投資有価証券の売却	30

財務CF

短期借入金の減少	▲ 45
長期借入金の返済	▲ 22
配当金の支払	▲ 10
新株予約権行使	19

2019/3月期 通期業績予想



	2018/3月期	2019/3月期		前期差(億) 前期比(%)
	実績 億円 %	予想 億円 %	予想 億円 %	
売上高	895	920		24 102.8%
営業利益	62 7.0%	64 7.0%		1 102.2%
経常利益	54 6.1%	61 6.6%		6 112.4%
親会社株主に帰属する 当期純利益	56 6.3%	45 4.9%		▲ 11 79.8%

2019/3月期 セグメント別売上高／営業利益 予想



		2018/3月期		2019/3月期		前期比	
		実績		予想			
		億円	%	億円	%	億円	%
国内食品事業	売上高	590		597		+ 6	101.1%
	営業利益	66	11.2%	57	9.5%	△ 9	86.3%
家庭用食品 業務用食品 加工食品用原料等	売上高	153		154		+ 0	100.5%
	売上高	215		220		+ 4	101.9%
	売上高	221		223		+ 1	100.7%
国内化成品その他事業	売上高	65		66		+ 0	100.3%
	営業利益	7	11.6%	5	8.3%	△ 2	71.9%
海外事業	売上高	252		270		+ 17	106.9%
	営業利益	▲ 7	－	6	2.4%	+ 13	－
改良剤事業 食品事業	売上高	151		156		+ 4	103.2%
	売上高	101		114		+ 12	112.5%
セグメント 計	売上高	908		933		+ 24	102.6%
	営業利益	66	7.3%	69	7.4%	+ 2	103.6%
調整額 (セグメント間消去)	売上高	▲ 13		▲ 13		+ 0	
	営業利益	▲ 3		▲ 5		△ 1	
合計	売上高	895		920		+ 24	102.8%
	営業利益	62	7.0%	64	7.0%	+ 1	102.2%

この資料には、当社の現在の計画や業績見通しなどが含まれております。

それら将来の計画や予想数値などは、現在入手可能な情報をもとに、当社が計画・予測したものであります。

実際の業績などは、今後の様々な条件・要素によりこの計画などとは異なる場合があります、この資料はその実現を確約したり、保証するものではありません。



お問い合わせ先
経営企画部 広報・IR室
池田・相原
TEL : 03-5275-5835